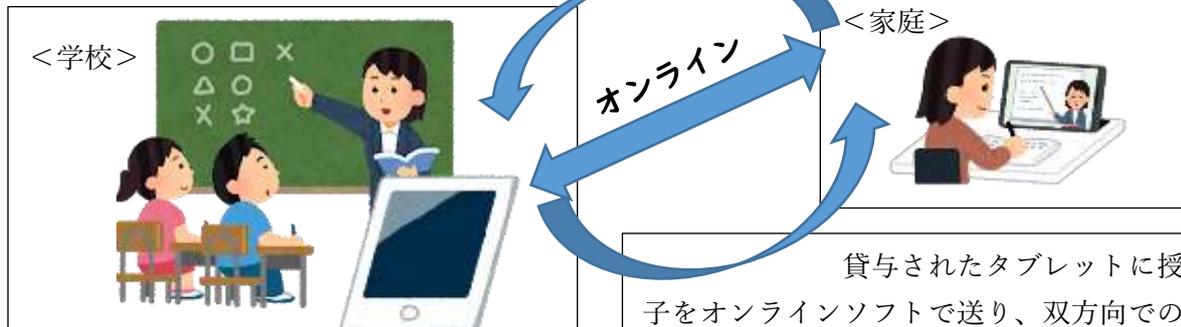


これも「未来の教室」～オンラインの活用～

新型コロナウイルスの拡大に伴い、体調不良等がなくても出席できない子供たちが出てきています。場合によっては、その期間が長期間におよび、個の学習状況が心配される事態も考えられ、各校で様々な配慮をされていることと思います。（インフルエンザ等の対応を含め）

そこで、域内において以下のような取組を行っている学校がありましたので、実施する上での留意点とともに、ご紹介します。



タブレットを休んでいる子供の机に配置し、担任は休んでいる子供への声かけを行うなどしながら授業を進めています。

貸与されたタブレットに授業の様子をオンラインソフトで送り、双方向でのオンライン授業を行っています。
小グループでの話し合いなどにも、タブレットを通して参加するなどもできます。

コロナ禍で実施する上で、最低限、以下の点については、十分に配慮し行ってください。
大前提として、オンラインで行うことのメリットがあること（つないで、プリント学習は×）

<留意点1> 「関係者の承諾を得る。」

オンラインでの映像には、プライバシーに関わるものが映り込む可能性があります。自宅での学習となった経緯等を含め、保護者の承諾を必ずとることが必要であり、大切です。

<留意点2> 「信頼関係をもとにした取組とする。」

コロナ禍にあっては、自宅学習となっていることについての誹謗中傷があってはなりません。事前に学校として、これらの誹謗中傷等、差別的な言動については許さない対応をとることを子供をはじめ保護者等に示すとともに、いざという時には、毅然とした対応をとる必要があります。このように信頼関係を土台とした取組としなければなりません。

コロナ禍でのこのような学習状況は、通常の学びが成立しないマイナスとして受け取られますが、
・仲間とのつながりの実感 ・困っている友達（人）を思いやる心
を学ぶ機会と捉えて、指導していくことも大切であると考えます。この学びの成立のためには、やはり子供・保護者等との信頼関係を土台としていることを忘れてはいけませんね。

コロナ禍にあっても、様々な方法等を工夫していただき、「個の学びの充実」を大切にした取組をお願いします。

